

日光市文化会館等あり方検討市民委員会 議事録

件名	第2回日光市文化会館等あり方検討市民委員会		
日時	令和4年9月29日(木曜日) 15:00~16:30	作成日	令和4(2022)年10月5日
場所	日光市役所本庁舎 1階 市民ホール	記録者	資産経営課 江連 嘉一
出席者			
<日光市> 鈴木和仁財務部長 植木修一資産経営課長 松本孝財務部参事兼財政課長 手塚一好財政課長補佐 手塚克英生涯学習課長 高橋英樹商工課長 福田初枝観光課長 高梨一己中央公民館館長 石崎貴久中央公民館公民館係長 資産経営課公共施設マネジメント係職員		<出席委員> 高橋 満(委員長) 和久 文子(副委員長) 岸野 稔 庄田 哲康 高橋 祐也 戸嶋 桂子 小栗 卓 八木澤 哲男 篠原 久生 小野田 栄二 宮脇 強志 大藤 美由紀 堀田 要	
(敬称略)			

議事内容

■配布資料

- ・ 次第
- ・ 資料1-1 第1回市民委員会の課題整理及び特別委員会等について
- ・ 資料1-2 今市文化会館における今市地域住民の意見の把握について
- ・ 資料1-3 文化会館検討資料
- ・ 資料1-4 新文化会館の整備及び現在の文化施設に関するアンケート
- ・ 資料2 新文化会館建設の是非について
- ・ 資料3 今後の検討スケジュール等について

■議事録

1. 開会

2. 委員長あいさつ

- 委員長あいさつ
- 前回欠席委員及び総合アドバイザーの紹介

3. 議事

議長

「委員長として議長役を務めさせていただきますが、まず現在出席をいただいております委員の数は、15名中「13」名で、定足数に達しており会議は成立いたします。

また、第1回の協議結果に基づき、今回の会議につきましても、議事録等は発言者を伏せた状態で公開されますが、この会議自体は非公開とさせていただきますので、忌憚（きたん）のないご意見をお願いします。」

(1) 第1回委員会での主な意見及び対応について

議長

「それでは、これより会議次第に基づき議事に入ります。(1)第1回委員会での主な意見及び対応について事務局より説明をお願いします。」

事務局

「(1)第1回委員会での主の意見及び対応について、ご説明させていただきます。

それでは、資料1-1の1ページをご覧ください。こちらは、前回いただいたご意見等の課題整理を行ったもので、説明の後で、ご意見等いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

始めに、1の「第1回委員会での主な意見及び対応について」ですが、第1回委員会での主なご意見につきましては、記載の①～⑥のとおり大きく6つございました。

まず、①、②につきましては、日光地域及び藤原地域につきましては、検討専門部会を設置し、各地域の会館施設のあり方について協議を行ってまいりましたが、今市地域ではそれがなされておらず、今市地域住民の意見も確認した上で全体を協議していくべきなのでは」というご意見をいただいたことから、今市地域の各地区自治会長及び市議会における公共施設等あり方検討調査特別委員会と、協議を行ったところです。

資料1-2をご覧ください。こちらが、協議の際に用いた資料となります。特に、市といたしましては、3の「今市地域における検討専門部会の考え方について」に記載の3つの理由に基づき、今市文化会館の老朽化が著しいことから、早期に方向性を決めていく必要があるため、専門部会を設置することなく、当委員会の中で、今市文化会館の今後を含めてご意見を伺っていきたいと考えていること。

また、矢印の下にありますように、今市地域の住民の方も含め、広く市民や利用者の意見を伺うことが不可欠であることから、4の「意見の把握方法について」の枠内に記載の方法で、意見を把握していくことを提案させていただき、ご了承をいただいたところです。

資料1-1の1ページにお戻りください。③につきましては、新文化会館建設の際には、施設の文化振興の位置づけが重要であるというご意見を受けまして、当委員会の皆さまのご意見を参考に、特別委員会と協議した上で、どのような位置づけの施設にしていくか決定していきたいと考えております。

④につきましては、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣との差別化が必要とのご意見を受け、利用状況を分析し、新たな施設の機能や規模について差別化を図ってまいりたいと考えております。

⑤につきましては、物価高騰等の影響を考慮した上で、整備費用について、市の建設部門により再度試算いただいたものとなります。

また、これとは別途に、解体費用についてですが、前回、2億円程度が見込まれるとお示したところですが、直近の情報として、参考にあります、足利市民会館の解体費用が約7億円掛かっていることから、文化会館の構造によっては、この解体費用と同程度の費用が掛かる可能性があるため、申し訳ございませんが、解体費用につきましては、第1回で申し上げた解体費用の試算を訂正させていただきます。なお、試算の詳しい内容につきましては、資料1-3に記載されておりますので、後ほどご覧ください。

⑥につきましては、今市文化会館及び道の駅日光の利用者に対して、アンケート調査を行うことで対応してまいります。なお、アンケートは、資料1-4に基づき実施してまいります。

また、広く市民の意見もお伺いするべきと議会からもご意見いただいたことから、このアンケートをベースとした無作為抽出による市民アンケートについても行うことが出来ればと考えてございます。

続きまして、2ページから3ページにかけては、「市議会における特別委員会」及び「今市地域 各地区自治会長会」、「文化会館運営審議会」からのご意見を整理したもので、そのうち主なものをご説明させていただきます。2ページをご覧ください。「特別委員会」における、主なご意見としては、③に記載の通り文化会館を有効に活用していくことや⑥の新施設の方向性について迅速に定めることなどのご意見をいただきました。

3ページ上段をご覧ください。次に今市地域各地区自治会長会につきましては、②において、整備する場所についてのご意見をいただいたところですが、整備地については、今市地域に限定されるものではないことをご説明させていただきました。下段には、「文化会館運営審議会」のご意見について記載させていただきます。

審議会においては、特に施設への交通アクセスや駐車場など周辺環境についてのご意見が主なものとなっております。

最後に、5のまとめとなりますが、文化会館に関連する会議体において、施設整備に否定的なご意見はなく、施設整備に当たっては、迅速性を重視した上で、留意すべき多数のご意見をいただいたことから、市といたしましては、赤枠にございますように、まずは、建設の是非を早急に決定し、そのうえで、具体的な整備内容について迅速に整備していきたいと考えているところでございます。

以上、説明とさせていただきます。」

議長

「ただいまの説明内容につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。」

委員A

「資料1-4のアンケートなのですがすけれども、これは具体的にどのような方法で実施するものなのか。ネットとか具体的な方法について教えてください。」

事務局

「アンケートの実施方法についてですが、（今市）文化会館を利用される方、それから道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣の多目的ホールを利用される方に対して行われるとともに、そちらの施設を今まで使ったことがあるような団体など利用登録されている団体へ郵送などをして実施したいと思っております。」

委員A

「そうしますと、先ほどの説明で、広く市民の意見を聴取するということがありましたけれども、今の説明ですと、利用者あるいは利用した人に限定されてしまいますよね。そうすると、広く市民の意見を聴取するということと合致しないのではないのでしょうか。アンケートをやる場合は、“広く”というところに意味があると思うのですが、その辺はどう考えますか。」

事務局

「説明が不足しており申し訳ございませんでした。広く市民の意見をお伺いするというので、アンケートをベースとしまして、無作為抽出による市民アンケートをその後（利用者アンケート実施後に）行う予定としております。」

事務局

「補足しますと、資料1-4のアンケートについては、利用者目線が重視されている部分があるため、これをそのまま（一般市民向けに）出すとなると趣旨が違ってくるため、内容を追加した上で行っていきたいと考えております。（一般市民向けのアンケートについては、）ある程度方向性が見えてきてからの方が、（利用者アンケートにより）利用している方がどのように考えているのかを明確にした上で、「このようなことを考えているのですがどうですか」というような、分かりやすいアンケートに修正をした上で対応したいと思っておりますので、（一般市民向けの）アンケートの案は、改めて当委員会に提示した上で、行っていきたいと考えております。」

議長

「ありがとうございます。今の事務局の回答でよろしいでしょうか。」

委員A

「はい。」

事務局

「補足としまして、この委員会での進め方の確認なのですけれども、市民委員会でいただいた意見を整理させていただいて、整理した内容を、議会の特別委員会の中で意見をもらって、それを市民委員会の中でフィードバックする（結果をご報告する）というやり方で今後に対応してまいりたいと思います。その中で、色々な意見があると思うのですけれども、答えを一つ一つ出しながら整理を心がけてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。」

議長

「ありがとうございました。要するに、フィードバックしながら、皆さまにご報告しながら、今のアンケートの事などのまとめをしていくということですので、皆さまよろしく願います。

アドバイザーの先生方から何かございますか。」

山本康友総合アドバイザー

「これからの想定⑤の施設規模や物価高騰に応じた整備事業費の再検証で、一番新しいものを資料1-3で2021年竣工のものを中心に挙げていらっやって、建築事業費から出して1㎡当たり70万円前後という金額が出ているのですが、これは、2021年に注目したもののなので、実は、ウクライナの戦争で輸入するものが高くなっているのですね。さらに（金額が）上がっていく可能性があるのも、もしできれば、現在の状況の中で発注したものが分かるともう少し今の状況が分かりやすくなるかなと思います。」

議長

「ありがとうございます。試算の方は、事務局で再度、木材にしても、単純に3mの10×10.5が約1,500円だったのが、約2,500～3,000円になっていたりしますので、そのようなことも踏まえ、改めて試算をお願いします。

続きまして、西尾先生お願いします。」

西尾真治総合アドバイザー

「先ほどの財政を考えた時の話について、もう少し先に話し合えば良いのかもしれないのですが、現状は、建設段階でそれぞれどのくらいお金が掛かるのかという話を中心になっています。しかし、実は、建設のときに掛かるお金の数倍、約5～6倍のお金が、建てた後に掛かると言われています。そういった建設後の運営にどれくらいお金が掛かるのか、その財源をどうしていくのかということも含めた検討をこの先やっていく必要があるかと思えます。

また、建てる時は、補助金などが使えるのですが、建てた後の費用というのは、すべて市の財源で賄っていかなければならないので、その点についてももう少し検討した方が良いかと思えます。紹介されている事例についても、建てた後どうなのか、運営状況がどうなっているか、建てた後にどれくらい実際に利用されているのか、最初に建てる時に立てた計画と実際において、どれくらい乖離があるのか、そういったことも調べていただくと、施設の内容をどうした方が良いか検討するときに役に立つのではないかと思います。

最後にもう一点になりますが、市民意見を広く聞いていくということについて、これももう少し先の検討で良いのかもしれませんが、今のところ、「どんな機能が必要ですか」ということをアンケートで市民に聞いていくことになっているので、どうしても今ある施設に近い話とか、要望的なものが意見として多く出てきてしまうのかと思えます。今ある施設を前提とするのではなく、新しいものを造るという話にな

ったときに、時代に合わせてこんな機能があった方が良くはないかとか、他の機能と組み合わせることでもっと良いものができるのではないかとか、発展的な市民意見を掘んでいくということも必要かと思えます。それは、アンケートでは難しいかもしれないので、例えばワークショップを開くなど、そのようなこともしながら、未来志向で市民意見を聞いて反映させていくという視点もあると良いかと思いました。」

議長

「それについて、事務局何かありますか。」

事務局

「今のご意見に基づき、今後対応させていただきたいと思えます。」

(2) 新文化会館建設の是非について

議長

「それでは、次に(2)新文化会館建設の是非について、事務局より説明願います。」

事務局

「資料2をご覧ください。1の市の基本的な考えについてですが、枠内にありますように、日光市の文化振興の一翼を担う施設としても文化会館は今後も必要となる施設と捉えていること。現在の今市文化会館の老朽化の度合いを考慮すると、大規模修繕して使用するより、建替えた方が、最終的にメリットが大きいと考えられること。機能面において、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣 多目的ホールでは、今市文化会館の代替えとして不十分であること。これまでの協議において、関係団体や市議会から新施設整備に対する否定的意見がないことから、市としましては、新文化会館の建設は必要を捉えております。

2の整備にあたって重点的に検討及び検証する項目につきましては、整備が決定した場合に、現時点で想定している「検討の際に重視する項目」を整理させていただきました。

①の求める機能及び規模につきましては、市として文化会館をどう位置付け、どう活用していくかといった存在意義を定めた上で必要な機能を検討していくことや、将来的な財政負担を考慮し、造っても使われない施設とならないように、日常的に利用される施設となるような付加価値を検討していきます。例えば、単なるホール機能のみではなく、観光誘客や産業振興、地域交流に資する機能との複合化も選択肢のひとつと考えております。

最後に、道の駅日光の多目的ホールと類似の施設を造っても意味がありませんので、差別化を図れる機能を検討していきます。これらの検討結果に基づき、市として案を作成し、日光市の身の丈に合った施設になっているか検証していきたいと考えてございます。

②の整備候補地につきましては、基本的には、財政負担軽減のために、市所有の未利用地を優先し、①で検討した機能面が十分発揮し得る適地を検討していきます。こちらの検討結果に基づき市の案を作成し、委員の皆さまに、ご意見を伺ってまいりたいと考えてございます。

なお、①と②につきましては、別々に検討していくよりも状況によっては、併せて検討していくことも必要と考えており、臨機応変に対応してまいります。

③につきましては、民間活力を導入することで、あらゆる面でのコストの削減やサービス向上が図れる可能性があることから、積極的に検討していきたいと考えてございます。

これらの考えをまとめ、来年度であります令和5年度中を目途に整備についても基本方針を定めていきたいと考えてございます。

以上、資料の説明とさせていただきますが、まずは、建設の是非についてご意見をいただき、その後、重点検討項目について、ご意見いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。」

議長

「ありがとうございました。ここで事務局から、建設の是非について意見を求めたいとのことでしたが、

その前に、ただいまの説明内容につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。」

委員B

「新文化会館を新しくしていくという流れは分かったのですけれども、1つでいいのか、複数必要なのかというところも検討していただきたいというところなのですけれども、よろしくをお願いします。」

議長

「ただいま、委員Bから複数にする（ことも検討するべき）という意見が出たのですが、事務局いかがでしょうか。」

事務局

「第1回目のときに（ご提示したように）、まずは、1つに集約するという前提で市として考えているのですけれども、例えば複数必要なのか（ということに関して言えば）、3つを持つというのは財政的に厳しい話で、今ある今市、日光、藤原の地にそれぞれ造るということは、財政的に無理であろうと考えております。そのために、順番は逆になってしまったのですが、日光（地域）と藤原（地域）については、専門部会を立ち上げて、協議をさせていただいて、日光（地域）については（さらに）提言書をいただいて、ホール機能と駐車場機能ということでご提言いただいているところでございます。どこに造るかは、まだ決まっておりませんが、今市地域ありきではないということで整理させていただいているのですが、それを複数造るのかについては、市としては、1箇所統合したいという考えでおりますので、市民委員の皆さんも加えてということであれば、この場で意見の集約をしていただければと思います。」

議長

「只今、事務局の方から、一つという想定で協議が始まりました。ただし、委員Bから話しがありましたように、複数（持つことについて）はどうか。日光地域については、提言書が出ており、藤原地域については、協議をしているという状況はお聞きしておりますが、日光市の中で、1つが良いのか、2つが良いのか、3つが良いのか、市としては、財政的なものや人口的なものを考えますと1つという市の方針が出たということがありますので、その辺は、委員の中で改めてご協議いただきたいと思っております。」

委員C

「同じ規模の文化施設を2箇所離れた場所に造るのか。それとも例えば、日光総合会館のように1つの大きいホールと複数の会議室がある総合施設を1箇所に建てるのか。あるいは、音楽堂のような大ホール、小ホールといった文化施設を同じ敷地に複数建てるのかによって違うとは思いますが、管理する側としては、まとまっている方が楽であると思っております。お金も掛かりませんし、人の手も少なく済みます。ただし、今市文化会館と道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣に関して言えば、100mの距離の間でも車を使う方が多い現状を考えると、例えば、800人のホールを建てたとしたら、駐車場は800台必要。そのためには、周辺の道路もバイパス規模の太い道路が必要になると思っております。それが例えば、800人と300人のホールがあれば、1,100台分（駐車場が）必要になります。ということを見ると、もし、同じ場所に大きいものと小さいものを建てるよりも少し離れた場所に造る方が、人の流れとしては、使いやすいように感じます。例えば、日光（地域）と藤原（地域）くらいまで離れてしまうと、話は別になってしまいますが、一般のお客様としては、使いやすいように感じます。」

議長

「個人的な意見になってしまいますが、現状、今の日光市の財政というよりも、人口と使い勝手、色々なことを考えていったときに、1つが2つになるのか、問題は使い勝手も良いのですが、その頻度も関わってくると思うのですね。ただ、日光市の人口が約8万人おりますけれども、これから6万人になってくる状況も見えているかと思っております。そうしたときに、世界の日光として本来であれば、1,000人規模、1,500人規模のホールを造れば理想だとは思いますが、活用度や財政状況を考えたときには、どういものが良いかということで、市としても1つが妥当であると考えたのだと思います。確かに、日光（地

域)に1つ、藤原(地域)にも1つ欲しいという意見は聞こえてはおりますが、相対的にみると、やはり複数は厳しいのではと個人的には思います。気持ち的には、日光(地域)にも藤原(地域)にも欲しいと思いますが、これからの日光市を鑑みたときに、人口密度などを考えても、これからの日光市には1つが良いのではないかと思います。

ただ、造る場所に関しては、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣については、当初そのような予定はなく、今市文化会館が現存していると仮定した上で、造ったのだと思います。確かに、400という席数はあるのですが、相対的なことを考えますと、今市地域ありきではなく、旧5市町村が合併してできていることを鑑みて、場所を1つに(まとめて)造るということではいかがなものかと思いますが、皆さまいかがでしょうか。」

委員D

「何をやっても賛否両論あるかと思いますが。個人によっての価値観が違うものですから、それによって優先順位も違ってくると思うのですけれども、現状、文化会館の大ホールで今市地域の市民文化祭など色々やっております。本当にこれがなくなったら、今市地域の住民は、どこで文化活動をやるのだろうと正直思います。確かに、この事業費の試算を見ると、大ホールとは言いにくく、500席~800席が良いのかなと思います。けれども、これから次代を担う子どもたちを育成していく文化活動拠点として、本当に重要な施設として、今、小ホールだけを建設したら、あと40~50年は、日光市に大ホールは出来ないと思うのですよ。

私は、子どもたちの地域格差をなくしてあげたいとずっと思っております。日光市だから、財政がないから、小さいので我慢してよというのは、よく分かるのですけれども、これから次代を生きる子どもたちに、日本の中でも注目度の高いこの日光でホールを建設するにあたり、素晴らしいホールであそこを使いたいということで、逆に日本全国から使っていただけるような、新たな文化の拠点の起爆剤になるのではないかと思います。それは、やってみなければわかりません。けれども、これから生きていく子供たちの、今まで、成人式もやりました。国体の開幕式もやりました。頻度は少ないかもしれないけれど、1,000人規模の色々な事業を今まで行ってきました。日光、藤原の会館が閉館になって、今市も閉館になったら、このような大規模な事業はどこでやるのでしょうか。オーケストラも一流のアーティストも小ホールでは呼べません。大は小を兼ねます。けれども、小は大を兼ねることはできないと私は思います。

試算を見ると確かに仕方がないな、当然だなと思うのだけれども、ここで私たちが頑張らなければ、将来未来がある子供たちに心豊かな感性を育てることができない。学校の芸術鑑賞教室はどうするのでしょうか。500席ではできません。世界遺産があり、栃木県の4分の1の面積を占める日光で、残ったのは小ホールでしょうか。今までの大ホールの利用は、どこに持っていけばよいのか。小ホールでも間に合うかもしれない。けれども、小ホールなりの楽屋数というものがあるわけですね。現状、小ホールの楽屋数では、足りないわけですね。重々、財政難であることはよく分かります。けれども、未来の子供たちのために(大ホールが必要であると)発言していかなければならない。その辺は、どのようにお考えでしょうか。」

事務局

「第1回の会議でも申し上げたとおり、どのような施設を造るかということなので、500席のホールに限ったことではないと申し上げます。それなので、委員のご意見で500席、800席、1,000席、外から呼ぶのであれば1,500席ないと収益を伴わないということで、財政的なことは抜きとして、選択肢として資料は用意させていただいているので、今後、規模についても検討をしていきます。その際に、施設を造るに当たって財政的にどうなるのかというのは、描いた上で考えていくことですし、西尾先生の話にもありましたように、いかに長期的にコストの掛からない施設にしていくとか、複合化を図ることで収益を生めるようにするとか、利用頻度が高い施設にしていくとかというのを皆さんのご意見をいただ

きながら整理していきたいと考えております。そのような中で、有効な施設としていくために数ヶ所造るというのは、財政上無理だと市は考えております。

1ヶ所なのか2ヶ所なのかということで、例えば、委員の皆さまの意見で2ヶ所という意見が多数を占めたとして、その結果としましては、議会と相談させていただいてという話になりますので、皆さんがここで決定するというものではありませんので、自由なご意見を述べていただいて結構です。それを参考に議会にすべてをお示して市と議会で一番良い方法を、すべての方のご意見を叶えることは難しいと思えますけれども、皆さまのご意見を参考にしながら、一番良い施設づくりを目指してまいりたいと考えております。今のご意見も議会に伝えますし、市としても考えさせていただきますし、おっしゃるとおりだと思います。」

委員E

「1ヶ所か2ヶ所かという話だったかと思うのですが、藤原の検討専門部会の際に、将来の財政状況とか人口の推移ということも含めて3つの文化会館を維持していくということは、日光市としては難しいということで色々な議論をしたのですが、最終的には、1ヶ所に集約するという事なのだろうなということで藤原地域としては、理解している状況です。規模については、もちろん色々な意見が出てくるかと思えます。ただ1点だけ、藤原の検討専門部会以外の（藤原地域の）方のイメージを色々聞くと、建替えというイメージは誰もなかったようですね。今市にある文化ホールを修繕して使っていくのだというのをほとんどの人が思っていました。」

事務局

「おっしゃるとおり、それについては、反省すべき点であると考えております。（他の）委員の方にも言われたことではあるのですが、資料1-1の2 第1回公共施設等あり方検討調査特別委員会についての特別委員会の意見の中で、①マネジメント計画においては、文化会館3館を統合することをモデル事業として掲げており、まずは、市全体の文化会館のあり方を検討するべきだったと考えるが、実際は日光・藤原を先行してしまっており、それはどうだったのか。というご意見をいただいております。それについては、財政的な視点から、まずはランニングを減らそうということで当時は進めましたが、そこが誤解のもとになっており、委員Eのおっしゃるとおり、それに関しては、謝罪するしかないかと考えてはいるところですが、こういった機会でも、まずは新たな文化会館を造るかということを決めることができれば、新たに市民の方に周知をしてまいりたいと考えております。」

委員A

「日光の検討専門部会は、2年も前にこのような検討を行ったところなのですが、前提としては、耐震性などの理由から了解したわけですね。それで、提言として5～6本の提言を出しているわけですね。ただ、地域的な特殊性と旧日光市の特殊性、そのようなものを勘案して、決して今あるような1,000席あるような大規模な総合会館を整備するというような話は一切出ておりません。やはり、あそこの中で、会議ができて、ちょっとした集まりができて、ある程度のホール的なものがあってと、そのようなものを前提としておりますので、日光地域としては、大きなものは他のどこかにできるであろうということで結論が出ているわけですね。

私が考えるに、今度整備するものは、新しい日光市として大きなものを造るのだということで、どれくらいのものだとか、どういう機能を持たせるのだというのは、この委員会の検討の中で議論していくものなのだと思います。ですから、1つ2つか3つか、2つ（以上）はあり得ませんということで考えていきたいと思うのですね。

この資料の中で、新しい文化会館を整備するのに、色々な要素を考えなくてはならないのかなと思います。私が思うに3～4つのポイントがある。1つは、地域性。農村であるのか、工業であるのか、観光地であるのかというような地域性と、やはり、それを維持していかなければならないので、人口規模を考え

なくてはならない。次に、どのような機能を持たせるのか。教育的なものをもたせるのか、文化的なものを優先するのか、色々あると思うのですね。そういうものを勘案して造っていくとすると、財政的なものと人口的なものは比例していくのかなと思うのですね。そのようなことを考えると、この資料（1-3）には足りないものがあり、一番大切なものは、人口規模だと思うのですよ。日光市は、100万人のわけがありませんので、そこから何を求めるのか。私が調べたところ、五泉市は4.8万人、養父市は2.5万人、新宮市が2.8万人、薩摩川内市が9.1万人、浜松市が39万人、小田原市が19万人、石巻市が14万人なのです。ですから、日光市の人口規模を考えたらどうなのだろうと、色々難しい問題はあるかもしれないのですけれども、ある程度の施設の規模というのは、おのずと出てくるのかなと私は思うのですけれども。」

事務局

「まさにおっしゃるとおりだという風に考えておまして、飽くまでも資料1については、繰り返しになりますが、前回委員の皆さまから意見をいただいたものの答えとして用意しているので、それが市の考えでないということを前提に考えていただければと思います。資料2のところ、まずは、造るということが決まったときに、2 整備に当たって重点的に検討及び検証する項目についてというところの枠内の①にありますように、日光市の人口規模や財政状況等を鑑みて適切な規模となっているか検証することで、造るとなった後に、こういった要素も踏まえながら、具体的な案を市が提示した上で皆さんのご意見を伺うといったことを考えております。」

議長

「そういったことで、複数造るというのは考えていないということです。ですから、飽くまでも出発点としましては、今市、日光、藤原の現存のものを解体し、日光市として新たな施設を適材適所な場所に1つ造るということだと思います。」

繰り返しにはなりますが、日光市として一番ふさわしいものを造っていくということで、そこには予算の面もありますけれども、夢とロマンがあるような皆さんの使い勝手が良いようなものを造っていきたいということをお大前提として、議事を進めていきたいと思っておりますので、その他ご質問等がありましたらよろしく申し上げます。」

委員F

「稼働率を上げることを考えることが一番だと思います。市民から使われる。例えば、5年に1回大きなものを呼ぶための施設を造ってもしょうがないですよ。道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣のときにも色々言わせていただいたことがあるのですけれども、市民がどれだけ使うのかというところは非常に大きいと思います。文化的なところもそうですし、私たちの愛郷心的なところにも繋がると思うのです。皆が使えるところ。これは、今市（地域）だけではなく、日光（地域）だけではなく、藤原（地域）だけではなく、すべての市民がその施設を使いやすいかたちで使えること。それが、すごく重要だと思います。そんな施設を目指していただければ、自然と皆が満足するような施設ができるのではないのかなと思いますので、その辺を考慮していただきたいと思っております。」

それと、民間活力の入れる時期ですよ。例えば、全部固まって完成してから民間活力を入れても使いようがないということもあつたりするのですよ。だから、計画の段階でどの辺で民間活力入れる（のか）。そして、どのような施設を造っていく（のか）。財政とすり合わせながら。また、市民意識というものをどの辺に入れていくかということ、タイミング的に難しいとは思いますが、その辺が上手くいけば、皆が使いやすい、文化だけでなく商業施設も稼働しやすいとか色んなところの側面から見て、この文化会館というものを造るに当たって、一つだけではなくて、欲張って色んなカテゴリーが成長するような文化会館を目指していただきたいなと思っております。色んな横の繋がりをもって考えていただけるとすごく良いのかなと思います。」

議長

「ありがとうございます。委員Fからは、日光市民の皆さんが使えるもの。一番それが重要ですよということをおっしゃっているのだと思います。その他、民間活力という話が出ましたが、事務局から何かありますか。」

事務局

「2点あったかと思いますが、資料2にもあるように、まさに委員Fのおっしゃったように、観光誘客や産業振興、地域交流に資する機能、皆さんがそこを拠点として感じられて、日常的に利用される施設を考えていきたいと思いますということを表現させていただいております。」

また、その中の③で、整備手法及び運営、保守管理方法の検討についてということで、民間活力を導入することで、整備、管理、運営コストの削減やサービス向上が図れるか検討するというところで、（委員Fの）おっしゃるとおり、すべて決まってからでは遅いと思います。そこも、側面から色んな視点も交えて施設づくりをすべきだということだと思いますので、これからの協議の中で、ご意見をいただいきたいと思っています。」

委員G

「まず、文化会館を造る必要があるのかというのが（今回の）一番のテーマであると思うのですが、それについては、資料2の方に新文化会館の建設は市として必要と捉えていますということなので、なくなってしまうようなことはないのだということなので安心はしているところなのですが、一般的にこうした方が（良い）というのはあるのですが、アンケートを自分で解いてみたところ、アンケートの内容で飛躍している部分があるところがありまして、図書館を併設してほしいとか、まず、文化施設をどうするかというところで、今の文化会館をどうするかというところの審議は、このアンケートをもらったときに考えるに、他のところも閉館してしまった上に、そういう他の施設まで付けて、大きなものが造れるのだろうかということも考えてしまうと、アンケートが飛躍しているのではないのかなと思いつつ、一市民として（アンケートを）解いてしまったところなのですが、そういったところも今後見直していくということでご返答いただいた部分もあるのですが。」

委員の方と事務局の方に質問なのですが、今市文化会館で何が行われているかご存知でしょうか。運営の状況が悪いとか、利用状況が少ないとかはおっしゃってありました。それと、収益という言葉が再三出ておりますけれども、実際今日、イベントが行われているのですが、何が行われているか皆さんご存知ですか。」

事務局

「文化会館の予約状況については、（参考までに）予定表を貰っておりまして、本日は、中学校の芸術鑑賞教室があります。10月2日は、今市小学校の150周年記念事業があります。」

委員G

「把握していただいているようであれば結構なのですが、芸術鑑賞教室については、色々なジャンルのプロの方をお招きして中学生や小学校の中学年、高学年など学年ごとにまとめて移動教室ということでプロの芸術を鑑賞するということを運営されているのですね。」

今回は、雑技団の鑑賞なのですが、今市文化会館でもコロナ対策ということで中学校3年生しかプロの鑑賞を観ることができません。それでも、1席おきの2回公演ということで、今市地区の子どもたちが（中学校3年生が）600人を300人ずつの2回に分けて鑑賞しているそうです。明日は、日光、藤原、足尾、栗山地域の子供たちを対象に1回公演をするということで、全3回の演目で行っているそうです。もしコロナではなかった場合、中学生ですと1年生から3年生までの生徒が何校かに分けて観ているようなのですが、1階から2階まで常に（席が）埋まっているということなので、1回の公演につき900人（席）が埋まっている状況でした。」

500人（席）ありきでないことは、もちろん分かっておりますけれども、小さい規模（のホール）を造ってしまった場合、これを何十公演できる財政が日光にあるのか。1公演は1公演ですので、何人入っても1公演だと思うのです。それが、小さいところで何公演も行わなければならないとなると、逆に見せられなくなってしまうのではないかと、収益を見込むということであって（収益を見込む事業ということに関して言えば）、教育上、子どもたちに見せるのは収益に該当する行為ではないと思うのです。そうすると、収益を目的としたものを建てるというのと、文化を養うための文化施設を建てるというのでは、趣旨が変わってくるので“文化会館”と名の付く以上は、収益よりもまず、地域の潤いのための文化を優先すべきだと私はまず考えております。

そういうものを実現してほしいと思うのですが、大きなホールでプロのものを見せてあげられるという子どもの教育上の感性を育てるという施設も大きくないと（プロの方も）呼べないと思いますので、今日、実際に日光市の教育関係の方々がやって下さっているというのが、ありがたいなお礼を言いたいと思ひまして、（芸術鑑賞教室に関する）数も調べてもらったのですけれども、そのようなことも（文化会館で）やっておりますので、こういうことを今後も引き続き行っていただきますような施設を造っていただきたいと思っております。」

事務局

「資料1-1で、文化会館の文化振興に関する位置づけということで、前にも文化をどう考えているのかというのは、ご意見いただいたところで、新文化会館建設で合意形成が図られた場合に、文化会館に求めるものについては、施設の文化振興に関する位置づけが重要であることから、市民委員会のご意見を参考に、特別委員会と協議し決定していくということなので、まずは、文化会館ですから、おっしゃるとおり文化をどう考えるかというのがあって、飽くまでも、他の部分の付帯施設については“付帯”過ぎないということに理解しております。

では、なるべく今、皆が一度に集える施設というのが良いに越したことはないという風に理解しておりますし、今そのようなことが出来ない状態であったりする中で、いつ（今市）文化会館が使えなくなるか分からないような状況があるものですから、早めに答えは出していききたいと考えております。」

委員H

「市としての文化会館の位置づけは、大体どのくらいで決めていく予定ですか。」

事務局

「資料2の最後に書いてありますように、令和5年度中を目途に文化会館整備に関する具体的な基本方針を定めるということで、どのように文化を求めるのか、例えば、文化会館一つ取ってみても、道の駅日光日光街道ニコニコ本陣の多目的ホールを調べさせていただくと、生演奏に向かず、電子的なもの（カラオケやバンド演奏等）に向くように造られているということ。文化会館を造るに当たっては、音楽の生演奏なのか演劇なのかそれぞれ向く施設があるということですので、差別化を図ることが重要だというご意見もいただいていることから、そのようなことを整理しながら、令和5年度中に考えていきます。具体的には、スピード感をもって実施したいと考えているのですが、最後に、今後のスケジュールということで、ざっくりしたスケジュールを考えておりますので、それを目途として、令和6年度には基本設計が出来るようなかたちで望めればと考えているところです。」

委員H

「その前に、建設の是非については、私は是ということをお願いいたします。それで、なぜこの質問をしたかと言うと、文化会館そのものの役割というのは、もちろん文化振興ですから、そういった位置づけは変わらないと思うのですけれども、この下（資料2の2）にあったように例えば観光誘客をすとか、産業振興や地域交流とかプラスアルファで考えているものによって、造る地域も十分変わってきてしまうと思うので、文化会館そのものの位置づけは良いとしても、プラスアルファで日光市として何を考えているのか

「このことをしっかりと考えていかないと、話が全くスタートしていかないと考えますので、その辺の位置づけをとということを聞きたかったのですがいかがでしょうか。」

事務局

「今回、造るかどうかがご意見をいただいて、市が考える今後留意すべき案というのを資料2の2番目の項目として挙げさせていただいて、皆さんのご意見を聞きながらそこに何を加えていくのかということで今後のスケジュールを決めていく。その上で、議会と相談をするという話になっているのですが、それによって順番は変わるかもしれないのですが、2の①から③は今後の検討する順番という風に考えていただければ良いのかなと思います。（資料3の）スケジュールをご覧くださいと、説明せずに飛んでしまい恐縮ですが、令和4年の9月の今日、市民委員会で建設の是非についてご意見をいただいて、その意見をもとに、来月に特別委員会で意見をいただいて、これ（この案件に関して）は、色々なご意見があるので、この委員会で決定するのではなく、市議会の意見をもとに決定していくというスタンスで考えております。10月には、造るといったことで決定した場合には、11月には、求める機能や候補地の基本方針というものを示していく。その時に、求める機能というものを市としては、一番有効であるかをご提示したいと考えております。その上で、皆さんにどのようなご意見があるかということをお聞きしたいと考えております。」

委員H

「もしかすると次の議題かもしれませんが、11月に候補予定地の基本方針とあると思うのですが、少し大変かと思うのですが、何件か市で考えている土地があると思うのですが、ここだったら産業振興できるだとか、ここだったら観光誘致に強いだとか、ある程度そういうものもお示ししていただかないと、ここが市有地で空いているからここだよねという、例えば、大沢の方で観光やってもしょうがないわけですから、市の候補地のある程度の特徴を次回までにいただければありがたいと思います。」

事務局

「それについては、色々なご意見があって、このようなスケジュールになっていますが、市の中でも合意形成が図られているわけではなく、スピード感をもってやるためのスケジュールとなっているのですが、なるべく迅速な対応をしていきたいのですが、ざっくりとしたものを示せるかもしれませんが、具体的にどこだとなると、それが独り歩きし波紋を生んでしまい混乱を生むということもありますので、具体的なところまで踏み込めないかもしれませんが、できるだけ用意したいと思います。」

委員E

「藤原地域の話になってしまい申し訳ないのですが、藤原地域は、大方、色々な会議で聞けるだけ聞いたのですが、文化会館は絶対必要だという意見でした。100%で、要らないという意見はありませんでした。ただ、今後、建て替えか改修かということに関しては、コストの問題ですから、その辺はきちんと説明していけば理解されるかなとは思っております。今のところ皆大規模改修だと思っております。それと、仮に新たな土地に新しく建てるのだとすれば、遠隔地の人たちの公共交通等のアクセスのところは、なるべく不便にならないように検討して盛り込んでいただきたいという話がありましたね。」

それと、民間活力という話が入ってくると、大体このような話が起きるのですが、藤原地域の場合、市民生活のための文化会館というのをきちんと主軸においてもらいたいという方がほとんどだと思います。その後付けで、観光やるのか何をやるのかというのはあるのですが、やっぱり順番は、市民のため、住んでいる人が学校の発表会ができるか、住みやすいまちというのでしょうか。そういうものを大切にして文化会館の建設というものを進めてほしいなという意見がありましたのでよろしくお願ひします。

委員B

「私も委員Eとほとんど同じ意見です。」

議長

「それでは色んなご意見等ありがとうございました。新文化会館の是非についてということでございますので、今、皆さんのご意見を伺ったのですが、アドバイザーの先生方から何かありましたらぜひお願いします。」

山本康友総合アドバイザー

「文化に関しては、必ず存続しなければならないというのがあるものなのですが、先ほど西尾先生も言われたのですが、その後の維持がなかなかうまく音響にせよ照明にせよ更新されないというのがあって、建物に関しては、それを含めて文化の継続というのをやっていった方が良いと思います。」

この中で、委員Eが言われたように、今市文化会館を大規模修繕と建替えの場合のメリットデメリットで、例えば、修繕してやっているところもあります。清瀬（市）の市民文化会館は、完全に大規模修繕をやっています。ただそのことによって、その間、閉館になってしまうと、その間、使えないということがあって、そういうデメリットがあるということで多分（今市文化会館は）新たな場所ということなのでしょうけれども、それ以外に、大規模修繕すると建物自体の耐用年数があるので、新しく造るよりは、修繕すると先にそれは建替えによりいくらかは伸びるでしょうけど、そのようなことがでてくる可能性があるのです、その辺の検討が必要かなと思います。

それから、機能と規模についての議論は、今後の検討になるのでしょうけれども、今やっている文化会館の中の議論では、平土間とですね、階段状の座席というのはすごく議論になっているので、平土間というのは、平にしておいて座席が出てくる感じになるのですが、そのようなところも議論していただければと思っております。」

西尾真治総合アドバイザー

「資料2の2番で、日常的に利用される施設に付加価値を付けていくというところで色々話がありました。どこにするのかという候補地については、非常に微妙な問題があるのでなかなか出しにくいというのがあって、①番②番という順番で進めることになっているかと思えます。ただし、先ほど高橋委員からご指摘があったように、逆にどこにするのかということによって、その場所の特性に応じてどういった付加価値を付けていくのかということが変わってくる可能性もあります。日光市の特徴として先ほど委員Cからもご意見がありましたが、駐車場の問題が大きいのではないかと私も思います。今日も道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣を視させていただいたのですが、平日の昼間でもすごく賑わっていて、駐車場がほぼ満杯な状態でした。そのような状態だと、市民の方が利用されるに当たっても車で行くにいけないということがあると、使いにくい施設ということになってしまうということがあると思います。そのようなことも含めて、ある程度候補地というのは、機能、規模、地域性も含めて連動させながら考えていく必要があるのではないかと感じました。」

もう1点それに関連してですが、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣と差別化を図るという観点について、同じようなものを造ってもしょうがないといいますが、そのようなことは当然あるかと思うのですが、「差別化」という言い方で良いのかどうなのか。どちらかという、機能を連動させたり連携させたり、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣ではこういう機能があって、それと新たな文化会館の機能を連携させることによって文化施設としての機能をより高めていくような、機能間の連携のような話も入れていくと良いのではないかと感じました。」

議長

「ありがとうございました。」

それでは、皆さまのご意見をまとめたいと思います。今の議題は、新文化会館の是非についてということですから、とりあえずここで決を採りたいと思います。市として新文化会館は造るべきと捉えているようですが、新文化会館建設について異議のある方がおりましたら挙手を願います。」

～挙手された委員なし～

議長

「どなたも挙手された方はおりませんので、賛成多数ということで、新文化会館を造るという方向性としたと思います。

それでは、改めまして、新文化会館は造るという意見でよろしいでしょうか。」

委員一同

「異議なし。」

議長

「ありがとうございます。それでは、新文化会館は造ることとしますのでよろしくお願ひいたします。」

事務局

「飽くまでも、決めるのは市議会という話になりますので、委員の皆さまのご意見としましては、造るということで合意形成が図られたということで解釈いただければと思います。」

議長

「良いものを適材適所造っていくということで、また改めて色々なご協議いただきたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、(3) 今後の検討スケジュールについて事務局から説明をお願いします。」

(3) 今後の検討スケジュールについて

事務局

「資料3をご覧ください。今回、施設整備について是というご意見をいただいたため、記載の令和4年11月以降も含め、こちらが、現時点で想定したスケジュールとなります。今後の検討の進捗によって変更になりますので、あくまで現時点でということをご覧ください。

資料2の後半で説明させていただきました重点検討項目について、数回に分けて皆さまにご意見いただき、議会と協議を重ねていきながら、令和5年の10月頃までに基本方針の策定を目指したいと考えてございます。また、令和6年度に基本設計を実施し、令和7～8年度にかけて建設事業を開始できればと考えてございます。

最後のその他検討事項につきましては、文化会館整備にあたり関連する事項をまとめたものとなります。現在、今市文化会館に併設されております中央公民館や、勤労青少年ホームなど、今回の検討に併せてご意見をいただく場面も出てくるかと思われまますので、よろしくお願ひいたします。説明は以上となります。」

議長

「ありがとうございます。先ほどから、今後のスケジュールについて色んなご意見をいただいたところですが、改めて、何かご意見等ございましたら屈託のない意見をよろしくお願ひしたいと思います。」

委員H

「今後の検討事項なので、まだあれなのですけれども、今のところ、中央公民館と勤労青少年ホームは、市としてはどうしていくのかという想定なのですけれども。」

事務局

「中央公民館も非常に劣化が激しい状況でこれも待ってはられないという中で、複合化の検討には、商業施設もあれば、公民館もあるかなと考えます。じゃあ公民館を併設するのか、商業施設を併設するのか、それとも観光施設を併設するのかという議論の中でやっていくという話なので、中央公民館については、例えば、人口規模から中央公民館が今市地域になければならないとなれば、文化会館の付帯施設(の内容)によっては、(文化会館の建設地は)今市地域以外の選択肢も出てくるわけですし、文化会館がどうなる

かによって変わってくるということが現状なので、その文化会館の行き先を決めた上で、それに基づいて整理されていくと考えます。同じように日光、藤原の会館施設（の場所）についても同じように、本体の文化会館がどこにあるかによって日光、藤原の会館施設の（場所の）位置づけが変わってくるので、そのような意味で、文化会館の方向性を早急に定めて、（まずは、新文化会館建設について）優先して進めて行きたいと考えます。」

委員H

「市としては、一緒に壊してしまおうかという考えなのですね。」

事務局

「なんとも言えないところなのですが、現在、施設（中央公民館）の相当老朽化が進んでいるのが現状で、そこは、壊すか壊さないかという話の以前に、使えなくなってしまうということもあり得る状況なのだとということでご理解いただければと思います。」

委員A

「再確認なのですが、文化会館というのは、ホールプラス若干の付帯設備を含んで言っているのか、ホールだけを言っているのか、そこを明確にお願いしたいのですが。先ほどの（資料2）2の①の複合化を検討するというのがありますよね。そうすると、文化会館プラス付帯設備、大ホールプラスその他、その辺はどうなのでしょう。議題にあります新文化会館というのは、大ホールだけなのか。それにプラスして色々なものが付いてくるのか、その辺はどうなのですか。」

事務局

「2021年の情報になりますが、文化会館で単独でやっている施設はなくて、全国的には複合化しております。それなので、市としては、複合的な施設というのを考えております。そこには先ほど、委員Hのおっしゃった勤労青少年ホームであったり中央公民館であったりもありますし、違う視点で観光誘客や産業振興という視点もあります。前提としてそのようなものがあるものですから、この（委員会の）委員の方にも商工会議所の方であったり、観光協会の方であったりということでも入ってもらっています。

こちらにつきましても、資料2に書いてありますとおり、観光誘客や産業振興、地域交流に資する機能との複合化を検討することで、市の方で前提としては考えておりますので、提案させていただいた上で、皆さんのご意見を聞きたいと考えております。」

委員C

「（資料3の）2のその他の検討事項の最後の項目で、今市文化会館が新文化会館整備前に急遽休館となったというところに掛かることなのですが、昨年度、日光総合会館が閉館になりまして、今、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣に日光総合会館を利用されていた方たちが流れています。コロナ禍で利用者が少ないので、問題なく利用できていますが、今、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣は、ホールと楽屋をそれぞれ別々の施設として貸出しが行われている状況となっているようで、楽屋のみを借りて小規模な会議を行いたい方もたくさんいるようですが、公民館などでは、製薬会社が行っている医療従事者向けのセミナーなどは、営利目的なので実施をお断りされて、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣を利用しようとしても、大きなイベントで楽屋も合わせて利用している場合は、そのような団体も使えないということが起きているようです。例えば、日光市内の他の公共施設、公民館ですとか学校の体育館などの通常営利目的では使用できない場所を特例的に、企業の内部向けのセミナーなどをできるように調整してもらいたいと思います。」

事務局

「1回目のこの会議においても、既存文化会館及び道の駅日光の利用実態の詳細調査についてということで宿題をいただいております、そのようなことも整理してそれに対しての代替案というものも、今後、市で考えた上で、この委員会に提示してまいりたいと考えます。」

議長

「それでは、次回以降、整理できましたら事務局の方で検討し提示するというところでよろしくをお願いします。その他、何かございましたらお願いします。」

委員F

「要望的なものになるのですけれども、こんな文化会館ができたらいいねとか、楽しみになるような皆さんの意見を上げたらいいのではないかと思うのですね。この場で未来が明るくなるような議論ができないと、多分あんまり意味がないのかなと思うので、わいわいと意見を持ち寄らせていただきたいと思います。」

議長

「ありがとうございます。色んな方々が知恵を持っていると思いますので、屈託なく意見を出していただければありがたいと思います。」

それでは、また、山本先生、西尾先生からご意見をお伺いしたいと思います。」

山本康友総合アドバイザー

「今後の検討スケジュールで、実は、令和6年からですね、建設業界も完全週休2日制に入ってくるので、そのことによって、人件費が上がってきます。これは相当上がる予定になっていますので、それは少し把握をされた方が良いかと思います。」

西尾真治総合アドバイザー

「質問にもなるのですが、令和5年度中に基本方針を掲げるというスケジュールになっているのですが、令和5年度のスケジュールを後ろまで見ていくと、パブリックコメントがあって、その後、基本設計、実施設計の予算計上となっているので、恐らく、令和6年度から基本設計が始まるのかと思います。」

そうすると、普通、「基本方針」は“方針”ですので、こういった方向性で行こうということを決めて、その後具体的な「基本計画」を作って「基本設計」に入っていくという順番だと思います。しかし、このスケジュールでは令和6年度から「基本設計」に入るとなっているので、事務局が令和5年度に作ると言われている「基本方針」は、内容的には「基本計画」に相当する具体的なものを想定されているのではないのでしょうか。そうでなければ令和6年度からすぐ設計に入っていくことはできないかと思いますので、“方針”と言われるとまだ方向性を決める程度かなと思うのですが、令和5年度中に具体的な文化会館の整備の内容といったことまでも決めていくということになるのかについて、確認させていただきたいと思います。そうだとすると、あと1年半の間でかなり具体的なところまで詰めていかなくてはいけないという覚悟もいるのかなというように思いました。」

事務局

「来年には、コンサル、委託業者を入れて成果物を作りたいと考えています。それがどの程度までできるのかというのは、皆様のご意見や議会との調整で変わってくるので、このような表現となっていますが、目指すべきは、（このスケジュール感で）具体的なかたちにしていけないと、なかなか対応できないので、そこまで目指していきたいと考えているところです。」

議長

「ありがとうございました。それでは、大変長時間に渡り色々なご審議ありがとうございました。以上で本日用意された議題については、終了いたしました。議事進行にご協力いただきありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しします。」

4. その他

事務局

「次回の第3回の委員会なのですけれども、資料3にもありますように、予定としましては、11月末頃を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。」

事務局

「これもちまして、第2回日光市文化会館等あり方検討市民委員会を終了いたします。ありがとうございました。」

以上（16時30分終了）

以上、本議事録の内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

令和4年 10月 12日

議事録署名人 堀田 吾

議事録署名人 高橋 祐也